備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成23年度事業）

事業の概要

事業開始年度		平成１８年～	根拠法令・例規等	おかやま子育て家庭応援カード事業実施要綱	
総合計画	大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり	
	中項目	基本施策	01	やさしさあふれるまちづくり	
	小項目	施策	01	子育て支援	
事務事業名			13	子育て家庭応援カード交付事業	

問合先		
担当課（室）	こども課	
職・氏名	子育て支援係長　堀川郁馬	
電話	０８６９－６４－１８５３	
このシート作成に要した時間	4.0 時間	

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	妊娠中の方、小学校６学年までの児童を持つ家庭（岡山県在住の方）
目的（何のために）	子育て家庭に交付された「ももっこカード」を架け橋に協賛店舗等が独自の子育て支援サービスを提供することで、子育てを温かく応援する地域づくりを推進する。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	少子化が進行する中、社会全体で地域が一体となって子育て家庭を支援し、子育てしやすい環境づくりを促進できる。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
子育て家庭応援カード交付事業	岡山県の実施する、協賛企業が提供するサービスが受けられる子育て家庭応援カード「ももっこカード」を交付する。 交付対象者：妊娠中の方、小学校６学年までの児童を持つ家庭（岡山県在住の方）	◎

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等		単位	平成21年度実績		平成22年度実績		平成23年度実績	
決算額 事業費	直接事業費	千円						
	必要人員		0.01人	58	0.04人	256	0.02人	140
	事業費計			58		256		140
財源	国県支出金	千円						
	受益者負担							
	繰入金							
	市債							
	その他（　）							
	一般財源			58		256		140
受益者負担比率		%		－		－		－

結果指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
説明	カード交付枚数			
結果指標量	人	126	106	118
対前年比	%	－	84.1%	111.3%
活動コスト	円	58,000	256,000	140,000
単位当たりコスト		460	2,415	1,186

事業の成果

成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
カード交付枚数	目標値（A）	1,000	1,000	1,000	1,000
	実績値（B）	126	106	118	到達目標値
	達成率（B/A）	12.60%	10.60%	11.80%	1,000

成果指標設定の考え方・式や説明

カード交付枚数。現在、市内の乳幼児、幼稚園児、小学校児童合せて約2,500名の約半数程度の交付を目指す。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である

必要性

- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- □ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価：B（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）

効率性の評価

コスト

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- □ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である

手段

- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価：C（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）

有効性の評価

目的達成度

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない

市民参画度

- □ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価：B（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

進行年度（H24年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：前年度と同様継続して実施していく

総合評価

子どもを生み育てやすい環境づくりに繋がる事業であり、広くカードがいきわたるよう、対象者に周知する必要がある。

総合評価：B（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）

Action

平成25年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：事業の性質から継続していく必要がある。